

# 民主大宮

NO. 99  
2005年11月  
日本共産党大宮支部  
電話 (52) 2422  
FAX (52) 2471



日本共産党・金子卓 議員

## 路線バス並みの低額料金で、タクシーの様に希望する場所から場所までの移動を提供する 新たな公共交通サービス

合併の重点事業のひとつに「市内循環交通システムの構築」があり、市は八月末に検討委員会を設置しました。検討委員会は先月、福島県三春町の循環バスと若手原前沢町のデマンド交通システムを視察、どのような方法にするか具体的な検討をおこなっています。

先の議会で堀江仙三議員は日本共産党市議団を代表して、市民が希望する場所から場所まで、ドア-to-ドアの移動を低額で提供する新しい公共交通サービスであるデマンド交通システムが山間部には最適でないかと総務常任委員会の視察をひまえて提案しました。

**デマンド交通システムとは**

この新しい公共交通は、電話予約により自宅や指定場所から目的地まで、ワゴン車等を使った乗合タクシー方式による送迎サービスで、タクシーの便利さをバス並みの低料金（一〇〇～二〇〇円）で提供するものです。

このシステムは、福島県小高町で平成十四年一月に導入されたのが初めて、現在全国で十八市町村で導入しています。自治体が商工会や社会福祉協議会に委託し、地域商店街の活性化、高齢社会における生活交通の確

保を図っています。

茨城県内でも東海村が十二月から試行運転します。(運行主体は社会福祉協議会、利用料金は一回利用(二〇〇円))

十一月七日に、郡山市で「デマンド交通システムは地域をどう変えたか」をテーマにしたシンポジウム(福島県商工会連合会主催)がおこなわれ、行政や商工会の方など全国から二〇〇名をこえる方が参加しました。金子議員も参加、常陸大宮市からも職員が二名参加しました。

日本共産党市議団は十一月十一日、同方式で今年七月から実施した栃木県芳賀町を視察、議会

内外で導入を提案しています。

**交通システムの条件を指摘**

日本共産党・金子議員は第三回定例議会の一般質問で、「市内循環交通システムを考えると、ひとつは山間部の方々が利用しやすい交通システムにすること。ふたつ目として駅前の通学・通勤時の交通混雑、定期的利用者が常陸大宮駅で一日平均八五〇人、山方宿駅で二三〇人いること示し、水郡線の存続・利用促進のためにも、この方が利用できることが必要です。これらのことは、高齢者や子どもなど交通移動不便者の日常生活交通の確保・充実策として欠かすことができないものと考えます」と指摘しました。



**一般会計ほかの決算に反対**

**日本共産党市議団**

第三回定例議会(九月議会)は、九月五日から三十一日まで開催されました。

最終日、平成十六年度一般会計ほか特別会計等の決算の採決がおこなわれ、日本共産党市議団は、一般会計、税率を値上げした国保会計、低所得者の保険料・利用料の市独自の減免措置のない介護保険会計、高い利用料の農集会計、高い料金の水道会計に反対しました。

**マル福制度が改定**

県の医療福祉費支給制度(マル福)が改定されたのに伴い、市の医療福祉費支給条例も改定され、十一月一日より実施されています。

小学校入学前の乳幼児・妊産婦等の外来医療費の自己負担一日六〇〇円(月一回限度)は、六月議会での「陳情採択」を反映して市独自で肩代わり(後日償還)することになりました。しかし、今まで無料であった入院費(日三〇〇円)・月三〇〇〇円(月限度)と食事費(標準負担額が一日七八〇円)の自己負担が新たに導入されてしまいました。

日本共産党市議団は、今回の改定に対して、「医療福祉費全体に自己負担を強めるものであること」「乳幼児医療費助成制

**議長・副議長選の結果**

定例議会最終日、議長・副議長から辞表が出され、投票による選挙で新しい議長と副議長が決まりました。

**議長**

Ⓐ 大貴孝夫 二七票(大宮)  
河野洪勲 三一票(美和)  
堀江仙三 四票(美和)  
五位洸譽 一票(緒川)

**副議長**

Ⓐ 五位洸譽 四九票(緒川)  
成井文夫 一七票(美和)  
金子卓 四票(大宮)  
小室 彬 一票(美和)  
木村久美子 一票(山方)

**常任委員会委員も改選**

常任委員会は任期満了によって改選されました。日本共産党の四人の市議団の常任委員会の所属は以前と同じです。

~~~~~

度の拡充を求める陳情が議会で採択されたことを反映して一部軽減措置をとったが不十分であること、「御前山地域の高齢者の医療費無料制度が今年度で廃止されること」に反対しました。

**12月6日から 第4回定例議会**

第四回定例議会は十二月六日から三十一日まで開かれ、一般質問は十三・十四・十六日に予定されています。みなさんの傍聴をお願いします。

「健康づくり」健康常陸大宮21計画について質問

健康づくり「健康常陸大宮21」計画について質問

今議会の一般質問は三日間おこなわれ十五人が質問。傍聴者は合計五十五人でした。

日本共産党・金子議員は、常陸大宮市の二十一世紀の「健康づくり」の基本的な方向を決める「健康常陸大宮21」計画について質問しました。

金子議員は一般質問で「毎回の計画策定の問題を取りあげていきます。今議会も、「住民の重い負担となっている国民健康保険財政の安定化のためには、予防可能な疾患である生活習慣病を確実に予防していく必要がある」として、住民の福祉の増進「そのもの」であることを求めました。

住民健診の充実を要求

金子議員は、基本健康診査の結果と課題についての質問のなかで、メタボリックシンドローム尿酸の検査を全受診者に導入するよう求めました。メタボリックシンドロームの検査を加えれば、過去一ヶ月の平均血糖値がわかり、現在の空腹時血糖値や随時血糖値検査と合わせれば、軽度の異常者も見逃さないようになります。

不全に結びつく危険があります。そのついで病気を未然に防ぐためにも尿酸の検査は必要です。

いずれも現在の検査項目にはありませんが、先進市町村では検査項目に取り入れています。

金子議員の質問に保健福祉部長は、「計画策定のなかで実施の方向で検討していきたい」と答えました。

メタボリックシンドロームの健診・保健指導への導入

また、循環器病・糖尿病・がん等の現状と課題、予防対策についての質問で「健康常陸大宮21」計画のなかに、今年四月に診断基準ができたメタボリックシンドロームも加えるよう求めました。メタボリックシンドロームは、内臓脂肪による肥満を中心に、高血圧・高脂血・高血糖が、それぞれの症状は軽くても複数かさなる動脈硬化症になりやすくなります。わが国では一〇〇〇万人の患者が見込まれています。【\*動脈硬化症は日本の三大死因のガン・心臓病・脳卒中のうち心臓病と脳卒中の二つを引きおこす病気】

庄一三〇以上、血糖値一一〇以上、悪玉コレステロール一五〇以上・善玉コレステロール四〇未満のうち二つ以上が該当すればメタボリックシンドロームと診断されます。

金子議員の質問に保健福祉部長は「今後の検討課題であると認識している」と答えました。

循環器病や糖尿病などの生活習慣病対策として、これらの方々に把握し、保健指導して、生活改善することにより、悪化させないことは住民の健康づくりを考えると大きな課題です。

また、循環器病・糖尿病・がん等の現状と課題、予防対策についての質問で「健康常陸大宮21」計画のなかに、今年四月に診断基準ができたメタボリックシンドロームも加えるよう求めました。



「ノーテレビゲーム」を提案

子どもメディアの問題を質問



金子議員は一般質問で、「子どもメディア」の問題を質問、「ノーテレビゲーム」を提案しました。

昨年の四月、岡山市で開かれた日本小児科学会でアメリカから招かれたストラスバーガー博士は「小児がテレビ・ビデオに接触することの『安全性』と『有効性』は、これまでただの一度も、どの国でも証明されたことはない」といっていました。

食糧物を乳幼児を含む子どもたちに与える時、「安全性や有効性」が一度も立証されていないものを平気で無制限に与えることなど考えられません。しかし、「電子メディア」に関しては、テレビ・ビデオか

憲法改定、中学校教科書採択問題

金子議員は憲法改定問題で、戦力不保持・交戦権否認を定めた九条一項を完全に削除し、「自衛軍を保持する」と明記して日本を「海外で戦争する国」に逆戻りさせようとする自民党の「新憲法第一次案」についての見解を矢数市長に質問。矢数市長は、「特定政党の素案なので市長としてのコメントは控えさせていただきます」と答弁。

また、金子議員は中学校教科書採択問題で、「新しい歴史教科書を『くろく』の扶桑版教科書に採択してほしい」と答弁。

金子議員は「子どもメディアの問題を質問」、「ノーテレビゲーム」を提案しました。昨年の四月、岡山市で開かれた日本小児科学会でアメリカから招かれたストラスバーガー博士は「小児がテレビ・ビデオに接触することの『安全性』と『有効性』は、これまでただの一度も、どの国でも証明されたことはない」といっていました。食糧物を乳幼児を含む子どもたちに与える時、「安全性や有効性」が一度も立証されていないものを平気で無制限に与えることなど考えられません。しかし、「電子メディア」に関しては、テレビ・ビデオか

メディア漬けの生活実態

文科省の委託を受けたNPO法人子どもとメディアが実施した「子どもとメディア接触と心身の発達に関する調査・研究」報告書では、子どもたちのからだや心・感覚などの発達や成熟

書の採択は、歴史教科書が〇・五％以下、公民教科書が〇・二％以下になる見込みであること。当然、茨城の七つの採択地区とも扶桑社の教科書は採択しなかったことを示し、採択結果についての市長の見解を質問しましたが、明確な答弁はありませんでした。

日本共産党のホームページ http://www.jcp.or.jp 北部地区委員会のホームページ http://www.jcp-net.jp/ibahoku/ 金子議員のEメールアドレス kaneko-s@jcp-net.jp

「メディア漬け」の生活が危機的とも言える深刻な影響を及ぼしていることが浮き彫りになってきました。一〇の調査は小学生四・五・六年生一〇〇〇人、中学生一〇〇〇人を対象にしておこなわれ、平日四時間以上メディア接触をしている子ども割合が、小学生で四九・三％、中学生で五四・四％とほぼ半数で、平日六時間以上接触している子どもが、小学生で二六％、中学生で二四・二％といずれも四分の一を占めています。こうした極端なメディア中毒の生活に陥っている子どもたちは、可処分時間のすべてをメディア接触に費やすだけでなく、睡眠時間も削り、テレビ、テレビゲーム、ケータイ、パソコンなどと向き合っています。平日、一日

六時間もの間、他の人と言葉もかわさず、一歩も身体を動かさずことなく、本も読まず、そしてもちろん勉強もしない子どもたちが小中学生の四分の一にも達しているのです。文科省も「国際調査の結果からは、わが国の子どもたちは、調査参加国の中で、学校以外の勉強時間が短く、テレビやビデオを見る時間は一番長いという実態が明らかになった」と言っています。坂本教育長は、「小児科医学会の提言は医学的な立場での報告であり教育者としてのコメントは差し控え、メディアに対する教育のあり方のみを答弁したい」として、「情報化の光と影の両面を十分に認識しながら、学校教育のなかで、将来をになう人づくりにという観点からメディアの正しいメディア活用について指導していきたい」と答弁しました。金子議員は、全国各地の小学校・幼稚園、保育園で「ノーテレビ・ノーゲームデー」などさまざまな工夫をこらした創意あふれる活動が始まっていることを紹介、常陸大宮市においても、小・中学生の生活実態調査をおこなない、市民への啓発の意味も含めて、学校ぐるみ・地域ぐるみの「ノーテレビデー」をおこなうよう提案しました。

このくなく慮ね！ ほんとうを遠く書いて 赤旗 日刊月2,900円 日曜版月800円 申込先 金子卓議員 (52)2422